

# 三沢厚彦

## アニマルハウス：謎の館

Atsuhiko Misawa's

Animal House: House of Enigmas



①

**2017.10.7.SAT - 11.26.SUN**

### 展覧会概要

三沢厚彦（1961～）は、現代日本を代表する彫刻家のひとりです。鑿や刀を使用する木彫という伝統的な技法によって、樟（クスノキ）の丸太から彫りだされ、油絵具で彩色されたその実物大の動物たち「ANIMALS」。それは、まさしく「anima（魂）」が吹きこまれたかのごとく、なまなましい生命感を漂わせています。

そんなアニマルズたちが今度出現するのは、白井晟一設計による特徴的な建築で知られる渋谷区立松濤美術館です。アニマルズたちは、周囲の空気を振動させるような強い存在感を放ちながら、館内に居場所を見つけ、その建築空間と新たな関係性をむすんでいきます。

ここを「アニマルハウス 謎の館」と称して、彼らの創造主である三沢も、館の主人として、会期中、館内に居場所を構え、制作したり、展示したりする予定です。さらに親交の深い、注目の作家たち—彫刻家の舟越桂、画家の小林正人と杉戸洋、写真家の浅田政志—を館の中へと招き入れていきます。作家たち、またその作品たち同士の交歓と共鳴によって今後巻き起こる出来事にもご注目ください。

## Message

ぼくは動物を等身の大きさでつくってます。素材は樟。鑿と彫刻刀を使って彫り込み、着彩する。そんな風に「**Animals**」はできます。

この度、渋谷区立松濤美術館で展覧会を開催することになった。独自性に富んだ空間を内包した豪華な私邸のようなその建物は、通常の展示ロジックでは攻略できない濃度があり、妙にわくわくした。これは面白いことができそうだ！訪れた時に、まずタイトルだけ思いついた。**アニマルハウス**。大好きなアメリカのコメディ映画、アニマルハウスと呼ばれる学生寮に住む、怪人、変人（アニマルみたいな奴等）が繰り広げる物語からとったものだ。

すると、おのずと方向性が見えてきた。ぼくが住人兼主人になって、お客さんを迎えるのはどうか？それで以前から、なにか一緒にやりたいね、って話していた、画家の**小林正人**さんに声をかけたら、面白そうだね、やろうよ、と。そして小林さんが杉戸はいいぞ、って画家の**杉戸洋**さんを連れて来てくれた。ぼくは先輩彫刻家の**舟越桂**さんにお声がけし、へ～、面白そうじゃない、三沢がきめたことだし、いいと思うよ、というありがたいお言葉をいただいた。

どんな展覧会になるんだろう？想像がつかない。白井晟一的设计した館のなかで行われる謎の展覧会。

そうか、**謎の館**。会期中も通して動いていく、展覧会。

そんな展覧会のポスターは、美術館の前でみんなで記念撮影するのが、謎の館らしくいいと思った。誰に撮ってもらおうか？あ、いい写真家がいた、**浅田政志**さん。そして浅田さんも客人に加わった。

彫刻家と画家と写真家、**5**人が集まった。僕自身の思いでもあるが、「彫刻と絵画、その間とその先は」というべきものが、館の中で示唆されるべき出来ごととして起こればいいな、と願うのである。両者が個々として存在し、そして溶け合い、次なる瞬間、今までとは全く違う見えかたをする。「アニマルハウス」はそんな体験の出来る場になればいいと思う。なんといっても「謎の館」なのであるから。

しかし、本当のところどうなるのであろうか…

**三沢厚彦**

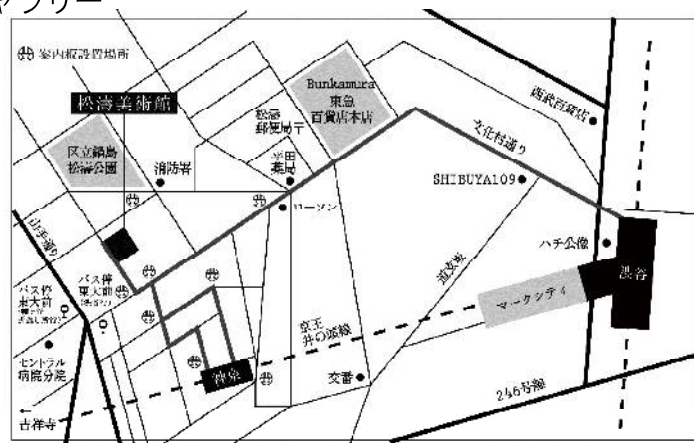
## 基本情報

展覧会名	<b>三沢厚彦 アニマルハウス 謎の館</b> <b>Atsuhiko Misawa' s Animal House: House of Enigmas</b>
会 期	<b>2017年10月7日(土) — 11月26日(日)</b>
開館時間	午前 <b>10</b> 時～午後 <b>6</b> 時(入館は午後 <b>5</b> 時 <b>30</b> 分まで) ※毎週金曜は午後 <b>8</b> 時閉館(入館は午後 <b>7</b> 時 <b>30</b> 分まで)
休 館 日	<b>10月10日(火)、16日(月)、23日(月)、30日(月)</b> <b>11月6日(月)、13日(月)、20日(月)</b>
入 館 料	一般 <b>500</b> 円( <b>400</b> 円)、大学生 <b>400</b> 円( <b>320</b> 円)、高校生・ <b>60</b> 歳以上 <b>250</b> 円( <b>200</b> 円)、 小中学生 <b>100</b> 円( <b>80</b> 円) ※( )内は団体 <b>10</b> 名以上および渋谷区民の入館料金 / ※土・日・祝日は小中学生無料 ※毎週金曜日は渋谷区民無料 / ※障がい者とその付添の方各 <b>1</b> 名は無料
主 催	渋谷区立松濤美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
協 賛	ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網
協 力	西村画廊、シュウゴアーツ、小山登美夫ギャラリー
会 場	〒 <b>150 - 0046</b> 東京都渋谷区松濤 <b>2-14-14</b>
電 話	<b>03-3465-9421</b> <a href="http://www.shoto-museum.jp">http://www.shoto-museum.jp</a>

## [交通案内]

京王井の頭線神泉駅下車徒歩**5**分

**JR**・東京メトロ・東急電鉄 渋谷駅下車徒歩**15**分



## 謎の館

優美な曲線で構成され、中心部には泉のような噴水を抱く邸宅風の建物。現代の美術館によく見られる直線的な白い壁に囲まれた「ホワイトキューブ」とは対極。この空間をいかに攻略するかが、作家たちに問われる…

### 謎の館・主人 Master



#### 三沢厚彦 Atsuhiko Misawa

彫刻家。1961年京都市生まれ。木彫によって動物をモチーフとした「Animals」シリーズを手がける。絵画やドローイング、セラミックなどの作品も手がけている。謎の館の住人兼主人として、客人たちを招き入れ、さまざまな出来事を巻き起こしていく。



#### Works of M

### 謎の館・客人 F

#### 舟越桂 Katsura Funakoshi

彫刻家。1951年岩手県盛岡市生まれ。人物をモチーフとした木彫などを手がける。30年来の親交がある謎の館・主人はその深い洞察力と造形力を畏敬している。そして作品が存在するだけで空間にもたらされる緊張感が館には不可欠であると考えている。



#### Works of F

### 謎の館・客人 K

#### 小林正人 Masato Kobayashi

画家。1957年東京都生まれ。主人はその藝大卒業制作に衝撃を受けて以来「この人は目に見えないものを探りながら描こうとしているんだ」と考えており、彼の絵が館の空間と呼応し、別の場所へ導いてくれることになるのだろうと予想している。



#### Works of K



### 謎の館・客人 S

#### 杉戸洋 Hiroshi Sugito

画家。1970年愛知県名古屋生まれ。「絵画空間、絵画と空間、空間と空間」の関係性を構築していく力の秀逸さから、主人は謎の館では、作品はもちろん、2階サロンミュゼに客人たちの制作の場をしつらえる役割をもお願いしている。



#### Works of S



### 謎の館・客人 A

#### 浅田政志 Masashi Asada

写真家。1979年三重県津市生まれ。家族写真などのシリーズで知られるが、今度は謎の館に集う作家たちの集合写真①や、それぞれの肖像写真、展示空間なども撮影することになり、新局面を迎えることになった。



## 謎の館

1981年10月に開館した渋谷区立松濤美術館。設計者・白井晟一（1905～83年）は京都市出身で、孤高の建築家とも呼ばれ、その建築は「哲學的」とも評される。美術館は晩年の白井の代表作。

## 会期中のイベント

### A | 作家集合トーク

→2階展示室

10月7日(土) 作家集合トーク「アニマルハウス(1)」

10月28日(土) 作家集合トーク「アニマルハウス(2)」

11月25日(土) 作家集合トーク「アニマルハウス(3)」

時間：午後2時～3時 出演：三沢厚彦ほか、舟越桂・小林正人・杉戸洋・浅田政志

(回により構成メンバーは異なります。最終決定メンバーおよびイベント内容はHP等で告知します)

### B | 作家によるワークショップ 2種

→地下2階ホール

①10月15日(日) 浅田政志による写真撮影ワークショップ

※松濤美術館を舞台に、ひと味ちがう肖像写真をとるコツを教わります(要デジタルカメラ持参)。

②11月3日(金・祝日)および4日(土) 三沢厚彦による木彫ワークショップ

※香り高い樟の板材を彫り込んでレリーフ作品をつくります。

材料費：どちらのワークショップとも1,000円、別途入館料 定員：各15名(応募多数の場合は抽選) ※高校生以上対象

時間：午前11時～午後5時 ※3日間とも(②の場合、2日間の参加が必要になります)

申込方法：往復はがきに、希望のワークショップ名・〒・住所・氏名・年齢・日中連絡のつく電話番号を明記の上、松濤美術館「ワークショップ」係まで。

1枚のはがきで、1名の申込が可能です。①は10月10日(火)必着、②は10月24日(火)必着。

### C | 三沢厚彦 × 舟越桂 公開制作 粘土で首像をつくる。

→2階展示室

※2人の作家がそのとき展示室にいる方をモデルに、粘土で首像の公開制作をおこないます。

10月21日(土) および11月18日(土) 午後3時～4時

→2階展示室

### D | 三沢厚彦 × 小林正人 × 杉戸洋 × 舟越桂 公開制作 および HORA AUDIO スピーカー MONO で音楽をきく (www.hora-audio.jp)

会期中の土・日曜日 午後3時～4時頃

※4人の作家もしくはそのいずれかが展示室で公開制作を行い、即興で音楽を流したりトークもおこないます。

(回により構成メンバーは異なります。最終決定メンバーはHP等で告知します)

### E | 浅田政志 公開撮影

→全館

10月7日(土) 午後3時～4時 ※Animals や公開制作中の作家たちを撮影する様子をご覧になれます。

### F | 学芸員によるギャラリートーク

→1階ロビーに集合

日時：10月20日(金)、11月11日(土)、19日(日) 各回午後2時～

### G | 金曜夕べの館内建築ツアー

→1階ロビーに集合

日時：10月13日(金)、20日(金)、27日(金)、11月3日(金・祝)、10日(金)、17日(金)、24日(金) 各回午後6時～(30分程度)

すべて、※要入館料 ※B以外は事前予約の必要はありません。

### お問い合わせ先

〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14 Tel.03-3465-9421 Fax.03-3460-6366

サイト：<http://www.shoto-museum.jp/exhibitions/175misawa/>

広報担当：鈴木 r-suzuki@shoto-museum.jp 展覧会担当：平泉 hiraizumi@shoto-museum.jp

◆ご提供可能な画像◆ ①～⑭ まで、番号にて展覧会担当者までお申し込みください。

①三沢厚彦、舟越桂、小林正人、杉戸洋、浅田政志 with Animals / 2017 Photographs by Masashi Asada

三沢厚彦 Atsuhiko Misawa ②Animal 2016-01 / 撮影：渡邊郁弘 Ikuhiro Watanabe ④Animal 2005-01 / 撮影：内田芳孝

④Animal 2010-05 / 撮影：大島拓也 Takuya Oshima ⑤Animal 2004-04 / 撮影：内田芳孝 Yoshitaka Uchida ⑥Bird 2013-01 / 撮影：加藤健 Ken

Kato ⑦Animal 2006-08 / 撮影：内田芳孝 西村画廊蔵 ③Animal 2013-04 / 撮影：岡野圭 Kei Okano / 樟、油彩 camphor wood and oil

舟越桂 Katsura Funakoshi ⑨ 妻の肖像 / 1979-80 / 撮影：落合高仁 Takahito Ochiai / 楠に彩色 painted camphor wood

⑩言葉をつかむ手 / 2004 / 撮影：岩根悠樹 Yuki Iwane / 楠に彩色、大理石 painted camphor wood and marble

小林正人 Masato Kobayashi ⑪ Unnamed #56 / 2016 ⑫ Artist's Life 2002 #2 / 2002 / 油彩、カンヴァス、木枠 oil, canvas, wooden frame

杉戸洋 Hiroshi Sugito ⑬ untitled / 2014 / 油彩、カンヴァス oil on canvas ⑭ 舟型のスタディー 1/40 / 2017 / 粘土 clay